令和 6年 1月 21日

第58回 岐阜県学校環境衛生研究大会

市販薬乱用が内包する諸課題に関する文献的考察

一般社団法人 宮城県薬剤師会
顧問 佐々木孝雄

市販薬乱用が内包する諸課題

1. 薬物乱用の質的変化 ～ 捕まらない薬物への移行
2. 市販薬の販売制度について
3. 市販薬の構成成分の有用性について
4. 薬物乱用防止教育のあり方について

近年の市販薬乱用に関する報道

2021年　9月11日	産経ニュース	若者襲う市販薬依存　せき止め１００錠乱用も
12月14日	京都新聞	死亡女子高生と2容疑者は「オーバードーズ」仲間
2022年 10月　3日	NHK名古屋	ＯＤ(オーバードーズ)は『助けて』の〝声なき声〟 若者に広がる市販薬の過剰摂取に向き合うために
2023年　8月16日	河北新報	市販薬過剰摂取、厚労省調査　中毒で搬送8割女性 平均25.8歳　依存・乱用拡がる
11月29日	朝日新聞	繰り返したオーバードーズ 家、学校…つらい日々、生き抜く術だった
12月15日	NHK	小学校に市販薬持ち込み児童2人が過剰摂取 救急搬送 「オーバードーズ」が社会問題に
12月18日	朝日新聞	せき止め薬1350錠「一気に飲み」昏睡 相次ぐ乱用、死亡例も

近年の市販薬乱用に関する報道

2021年　9月11日	産経ニュース	若者襲う市販薬依存　せき止め１００錠乱用も
12月14日	京都新聞	死亡女子高生と2容疑者は「オーバードーズ」仲間
2022年 10月　3日	NHK名古屋	ＯＤ(オーバードーズ)は『助けて』の〝声なき声〟 向き合うために
2023年　8月16		搬送8割女性
11月29日		家、学校…つらい日々、生き抜く術だった
12月15日	NHK	小学校に市販薬持ち込み児童2人が過剰摂取 救急搬送 「オーバードーズ」が社会問題に
12月18日	朝日新聞	せき止め薬1350錠「一気に飲み」昏睡 相次ぐ乱用、死亡例も

市販薬乱用
昨今、始まったわけではない

わが国における市販薬乱用の経緯

＊1955～1965年	大衆薬ブーム、自殺目的によるブロモバレリル尿素の大量服用事例が多発
＊1960年	ブロモバレリル尿素、アリルイソプロピルアセチル尿素、習慣性医薬品に指定
＊1970年	「かぜ薬製造販売承認基準」　厚生省薬務局長通知
＊1972年	「解熱鎮痛薬製造販売承認基準」
＊1976年	「鎮咳去痰薬製造販売承認基準」
＊1980年	「胃腸薬製造販売承認基準」

・・・・・

わが国における市販薬乱用の経緯

＊1955～1965年	大衆薬ブーム、自殺目的によるブロモバレリル尿素の大量服用事例が多発
＊1960年	ブロモバレリル尿素、アリルイソプロピルアセチル尿素、習慣性医薬品に指定
＊1970年	「かぜ薬製造販売承認基準」　厚生省薬務局長通知
＊1980年代	液体咳止め薬による乱用が流行（後に処方変更により下火に） ・同様の成分を含む医薬品は、現在も多数販売
＊1987年	鎮咳去痰薬の内用液剤の販売について　厚生省薬務局企画課長通知 ジヒドロコデイン、メチルエフェドリンの販売制限

わが国における市販薬乱用の経緯

＊1955～1965年	大衆薬ブーム、自殺目的によるブロモバレリル尿素の大量服用事例が多発
＊1960年	ブロモバレリル尿素、アリルイソプロピルアセチル尿素、習慣性医薬品に指定
＊1970年	「かぜ薬製造販売承認基準」　厚生省薬務局長通知
＊1980年代	液体咳止め薬による乱用が流行（後に処方変更により下火に） ・同様の成分を含む医薬品は、現在も多数販売
＊1987年	鎮咳去痰薬の内用液剤の販売について　厚生省薬務局企画課長通知
＊2009年	薬事法改正に伴う、一般用医薬品のリスク分類施行 ・「一般用医薬品による濫用」という概念は、リスク分類に反映されなかった
＊2014年	「濫用等のおそれのある医薬品」の指定（厚労省告示）
＊2023年 1月13日	「濫用等のおそれのある医薬品」の範囲見直し（厚労省告示）
＊2024年 1月12日	「医薬品の販売制度に関する検討会」とりまとめ

わが国における市販薬乱用の経緯

＊1955～1965年	大衆薬ブーム、自殺目的によるブロモバレリル尿素の大量服用事例が多発
＊1960年	ブロモバレリル尿素、アリルイソプロピルアセチル尿素、習慣性医薬品に指定
＊1970年	「かぜ薬製造販売承認基準」　厚生省薬務局長通知
＊1980年代	液体咳止め薬による乱用が流行（後に処方変更により下火に） ・同様の成分を含む医薬品は、現在も多数販売
＊1987年	鎮咳去痰薬の内用液剤の販売について　厚生省薬務局企画課長通知
＊2009年	薬事法改正に伴う、一般用医薬品のリスク分類施行 ・「一般用医薬品による濫用」という概念は、リスク分類に反映されなかった
＊2014年	「濫用等のおそれのある医薬品」の指定（厚労省告示）
＊2023年 1月13日	「濫用等のおそれのある医薬品」の範
＊2024年 1月12日	「医薬品の販売制度に関する検討会」とりまとめ

50年間ほとんど変わらず

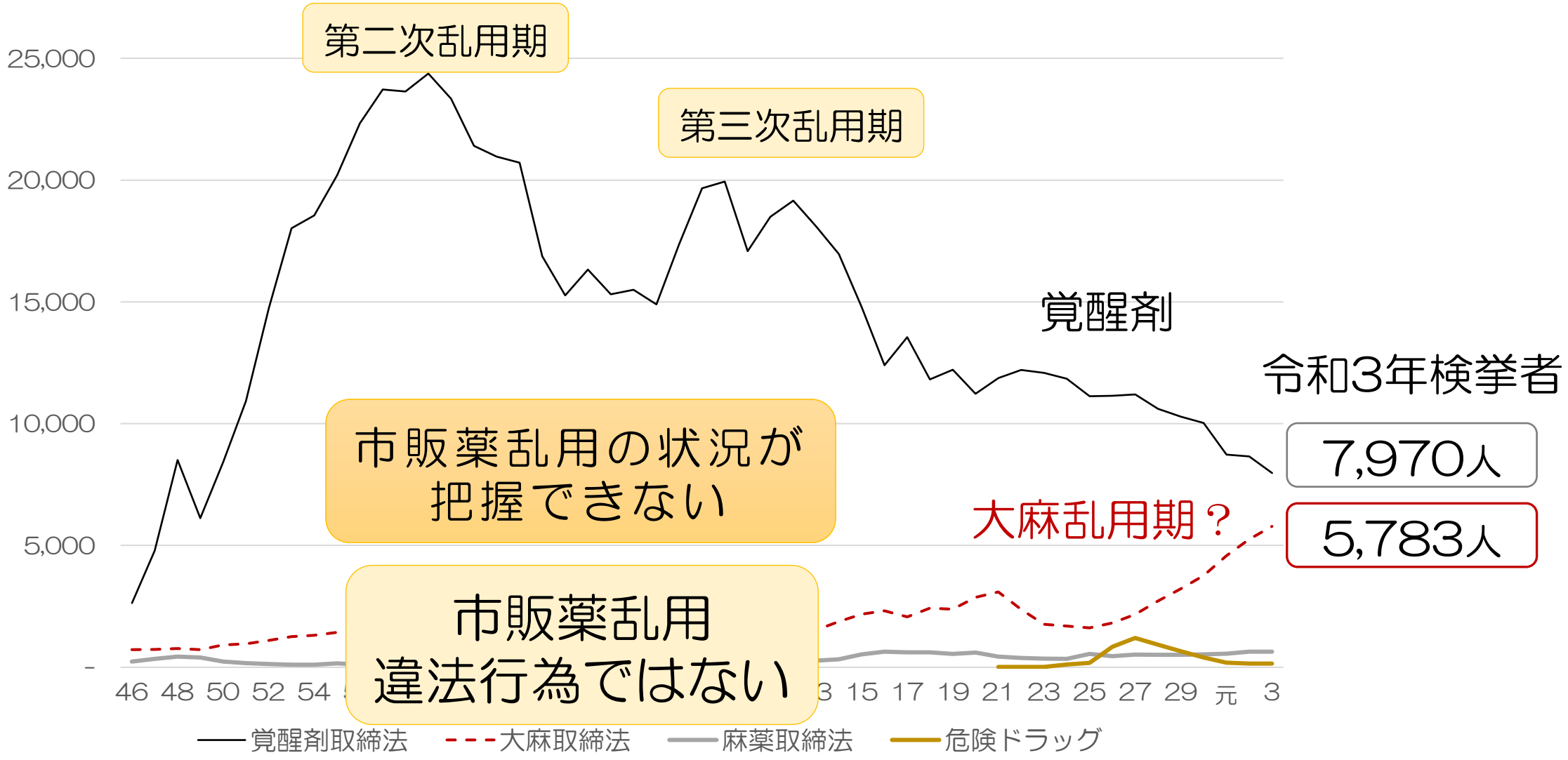
わが国における市販薬乱用の経緯

＊1955～1965年	大衆薬ブーム、自殺目的によるブロモバレリル尿素の大量服用事例が多発
＊1960年	ブロモバレリル尿素、アリルイソプロピルアセチル尿素、習慣性医薬品に指定
＊1970年	「かぜ薬製造販売承認基準」　厚生省薬務局長通知
＊1980年代	液体咳止め薬による乱用が流行（後に処方変更により下火に）
＊1987年	
＊2009年	・「一般用医薬品による濫用」という概念は、リスク分類に反映されなかった
＊2014年	「濫用等のおそれのある医薬品」の指定（厚労省告示）
＊2023年 1月	「濫用等のおそれのある医薬品」の範囲見直し（厚労省告示）
＊2024年 1月12日	「医薬品の販売制度に関する検討会」とりまとめ

乱用事例、継続的に報告あり

抜本的な対策は、講じられなかった

違法薬物使用等による検挙者数の推移



法務省,「令和4年版 犯罪白書」より改変

過剰摂取された市販薬（189品目）	
解熱鎮痛薬	47品目（24.9%）
せき止め	35品目（18.5%）
かぜ薬	34品目（18.0%）
催眠鎮静薬	28品目（14.8%）
抗ヒスタミン薬	14品目（ 7.4%）
その他	31品目（16.4%）

市販薬過剰摂取、厚労省調査

中毒で搬送、8割女性

平均25.8歳 依存・乱用広がる

市販薬の過剰摂取（オーバードーズ）で2021年5月～22年12月に全国7救急医療機関に救急搬送された急性中毒患者122人は、平均年齢が25・8歳で、女性が97人（79・5%）を占めたことが16日、厚生労働省研究班の調査で分かった。現実逃避などの目的もみられ、若年女性を中心に依存・乱用が広がっている恐れがある。

研究班の上條吉人・埼玉医大臨床中毒センター長は「市販薬の入手しやすさが関係しており、ドラッグストアなど実店舗での対策が必要だ」と指摘。若年女性の患者が多い理由の詳しい分析はこれからだが、過剰摂取に関する情報入手の手段として交流サイト（SNS）が多いことが影響しているとみている。

研究班によると、市販薬過剰摂取の搬送者に関する初の疫学調査。122人は吐き気や意識障害、錯乱などの症状で搬送された。死亡例はなかった。男性25人で女性97人。年代は20代の50人（41・0%）、10代の43人（35・2%）が多かった。

使われた市販薬は189品目で、内訳は解熱鎮痛剤47（24・9%）、せき止め35（18・

過剰摂取された市販薬

189品目

解熱鎮痛剤 47品目（24.9%）

せき止め 35（18.5）

かぜ薬 34（18.0）

催眠鎮静薬 28（14.8）

抗ヒスタミン薬主薬製剤 14（7.4）

その他 31（16.4）

※厚生労働省研究班まとめ

「嫌なこと忘れた」

河北新報，2023年8月16日

医薬品過剰摂取による救急搬送人員の推移

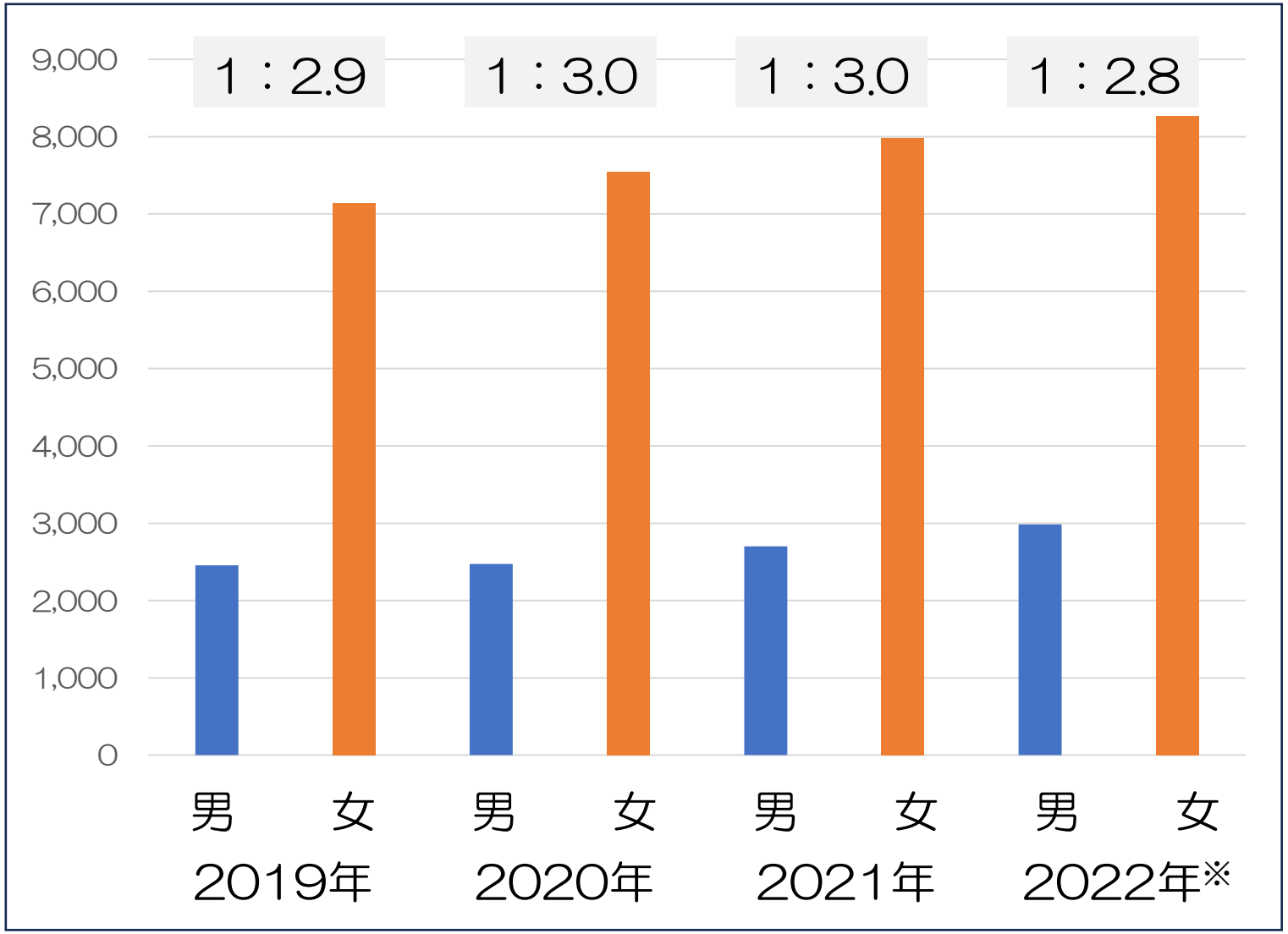
＊調査期間：2020年1月～2023年6月

＊調査対象：各都道府県の代表的な消防本部（５２ヶ所）
救急活動記録の初診時傷病名にOD、オーバードーズ、
薬・過剰などが記され、過剰摂取が疑われる事例を抽出・集計

＊搬送者には処方薬の過剰摂取や農薬の誤飲も含まれている（厚労省）

＊悉皆的に網羅しているものではなく、あくまで参考値（厚労省）

救急搬送人員の推移（男女別）



- 男女ともに増加傾向
- 覚醒剤取締法違反による検挙者数を上回る
- 女性が男性の約3倍
- 2022年 女/男比率

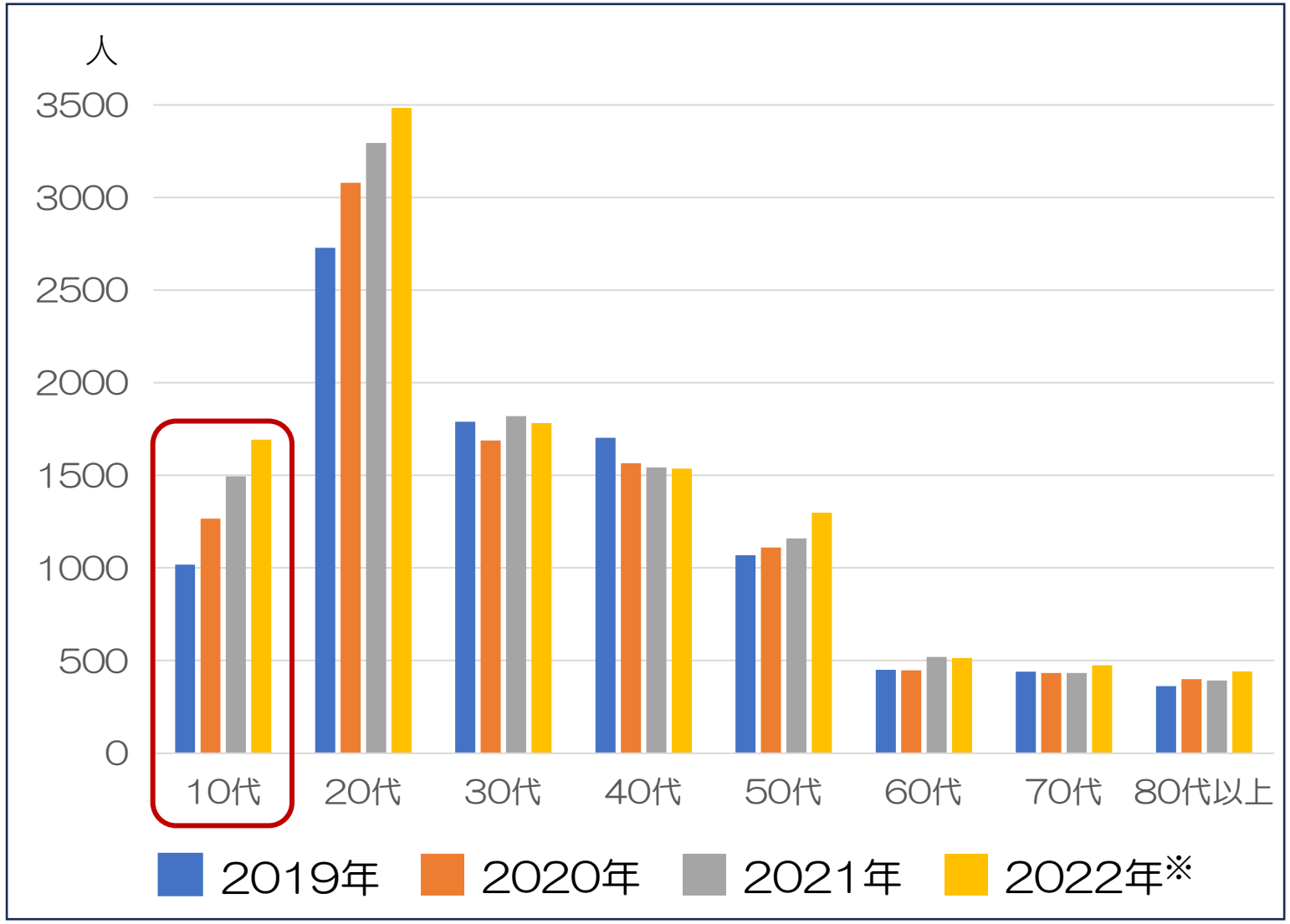
10代	20代	30代	40代
4.3	3.6	2.8	2.6

- 若年層ほど女性の比率が高い

※1～6月のデータを2倍した数値

2023年12月18日 厚労省 第11回 医薬品の販売制度に関する検討会 参考資料2をもとに作成

救急搬送人員の推移（年代別）



- 10代、20代の増加が顕著
- （2022年/2019）年対比

10代	20代	50代	60代
1.66	1.28	1.22	1.14

10代の伸び率が突出

※1～6月のデータを2倍した数値

2023年12月18日 厚労省 第11回 医薬品の販売制度に関する検討会 参考資料2をもとに作成

薬物使用と生活に関する全国高校生調査

国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所

＊調査対象：全国からランダムに選ばれた全日制高等学校202校における高校生

＊調査期間：2021年9月から2022年3月末

＊各対象校内で、無記名自記式アンケートによる調査

調査対象		回答校		有効回答数
学校数	想定生徒数	学校数	生徒数	生徒数
202校	172,391名	80校	44,789名	44,613

薬物使用と生活に関する全国高校生調査2021
https://www.ncnp.go.jp/nimh/yakubutsu/report/pdf/highschool2021.pdf

高校生の市販薬乱用状況

過去一年 使用率	合計 点推定値（%）	男性 点推定値（%）	女性 点推定値（%）
鎮咳薬・風邪薬	1.10	0.86	1.18
解熱鎮痛薬	1.18	0.86	1.33
いずれかの市販薬	1.57	1.21	1.73

＊約60人に1人が、いずれかの市販薬乱用経験あり

＊女子生徒の乱用率推定値が男子生徒の1.4倍

＊女子生徒による解熱鎮痛薬の乱用が最も多い

薬物使用と生活に関する全国高校生調査2021

過剰摂取された市販薬（189品目）	
解熱鎮痛薬	47品目（24.9%）
せき止め	35品目（18.5%）
かぜ薬	34品目（18.0%）
催眠鎮静薬	28品目（14.8%）
抗ヒスタミン薬	14品目（ 7.4%）
その他	31品目（16.4%）

市販薬過剰摂取、厚労省調査

中毒で搬送、8割女性

平均25.8歳 依存・乱用広がる

市販薬の過剰摂取（オーバードーズ）で2021年5月～22年12月に全国7救急医療機関に救急搬送された急性中毒患者122人は、平均年齢が25・8歳で、女性が97人（79・5%）を占めたことが16日、厚生労働省研究班の調査で分かった。現実逃避などの目的もみられ、若年女性を中心に依存・乱用が広がっている恐れがある。

研究班の上條吉人・埼玉医大臨床中毒センター長は「市販薬の入手しやすさが関係しており、ドラッグストアなど実店舗での対策が必要だ」と指摘。若年女性の患者が多い理由の詳しい分析はこれからだが、過剰摂取に関する情報入手の手段として交流サイト（SNS）が多いことが影響しているとみている。

研究班によると、市販薬過剰摂取の搬送者に関する初の疫学調査。122人は吐き気や意識障害、錯乱などの症状で搬送された。死亡例はなかった。男性25人で女性97人。年代は20代の50人（41・0%）、10代の43人（35・2%）が多かった。

使われた市販薬は189品目で、内訳は解熱鎮痛剤47（24・9%）、せき止め35（18・

過剰摂取された市販薬

※厚生労働省研究班まとめ

「嫌なこと忘れた」

河北新報，2023年8月16日

高校生の市販薬乱用と違法薬物使用の比較

過去一年使用率	合計	男性	女性
	点推定値（%）	点推定値（%）	点推定値（%）
鎮咳薬・風邪薬	1.10	0.86	1.18
解熱鎮痛薬	1.18	0.86	1.33
いずれかの市販薬	1.57	1.21	1.73
大麻	0.16	0.17	0.08
いずれかの違法薬物	0.19	0.24	0.09

＊いずれかの市販薬の乱用率推定値：大麻の9.8倍、いずれかの違法薬物の8.3倍

＊女子生徒における、いずれかの市販薬の乱用率推定値は、違法薬物の約20倍

薬物使用と生活に関する全国高校生調査2021

全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査

国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所

＊1987年以降、ほぼ隔年に実施。毎回9月・10月の受診者を対象に実施

＊薬物乱用者の全てではないが、その経時的変化を示している唯一の調査

＊対象者：全国の有床精神科医療施設の入院・外来で診療を受けた、
精神作用物質使用（アルコール以外）による薬物関連精神障害患者

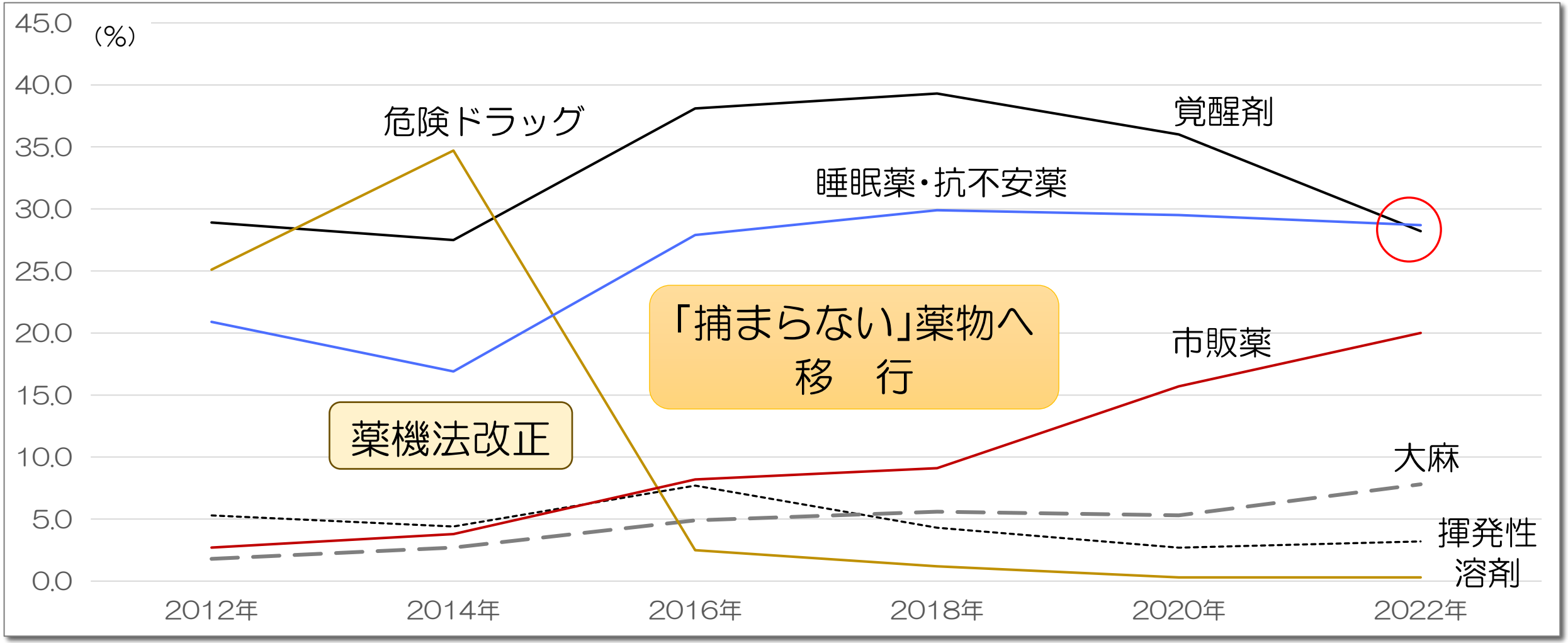
【2022年実施状況】

調査対象施設	回答施設	症例報告施設	報告症例数	分析対象
1,531	1,143	221	2,522	2,468

2022年度 全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査
https://www.ncnp.go.jp/nimh/yakubutsu/report/pdf/J_NMHS_2022.pdf

薬物関連精神疾患患者の主たる薬剤別割合

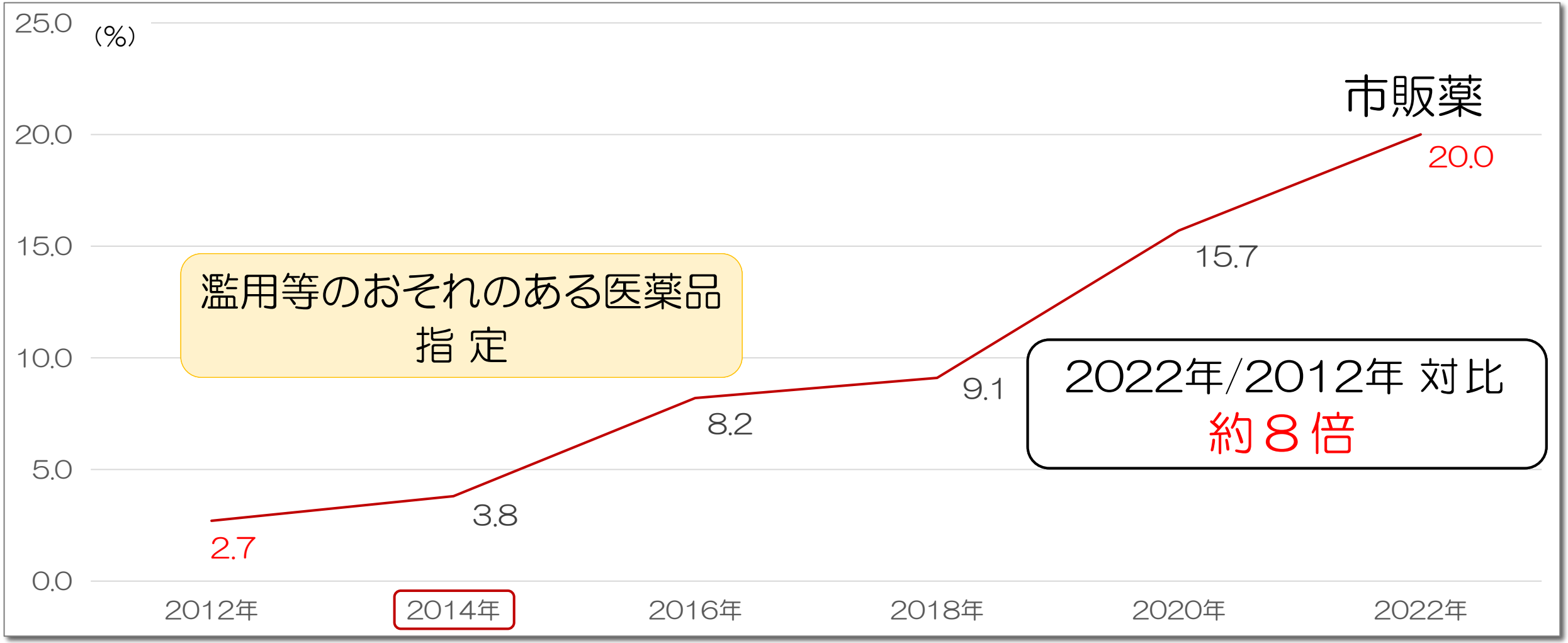
（一年以内に薬物使用あり症例）



2022年度 全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査

市販薬を主たる薬物とする薬物関連精神疾患患者

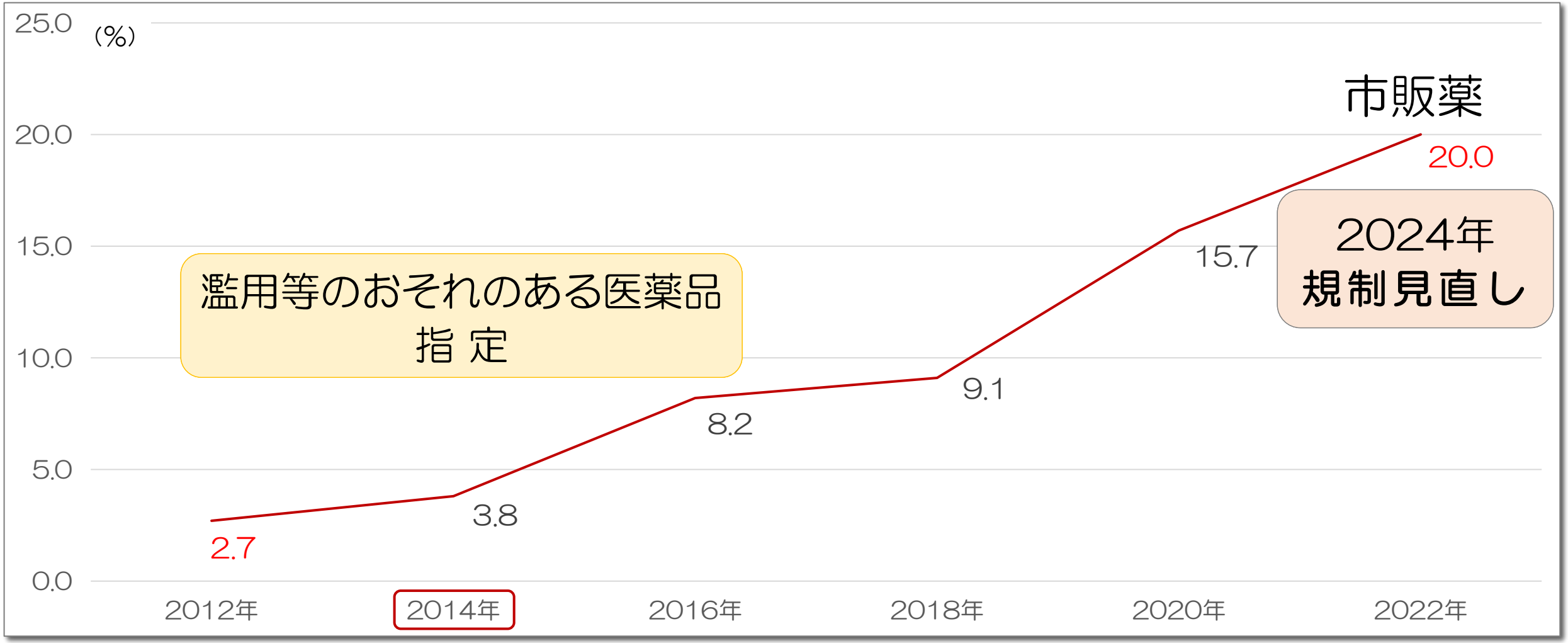
（一年以内に薬物使用あり症例）



2022年度 全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査

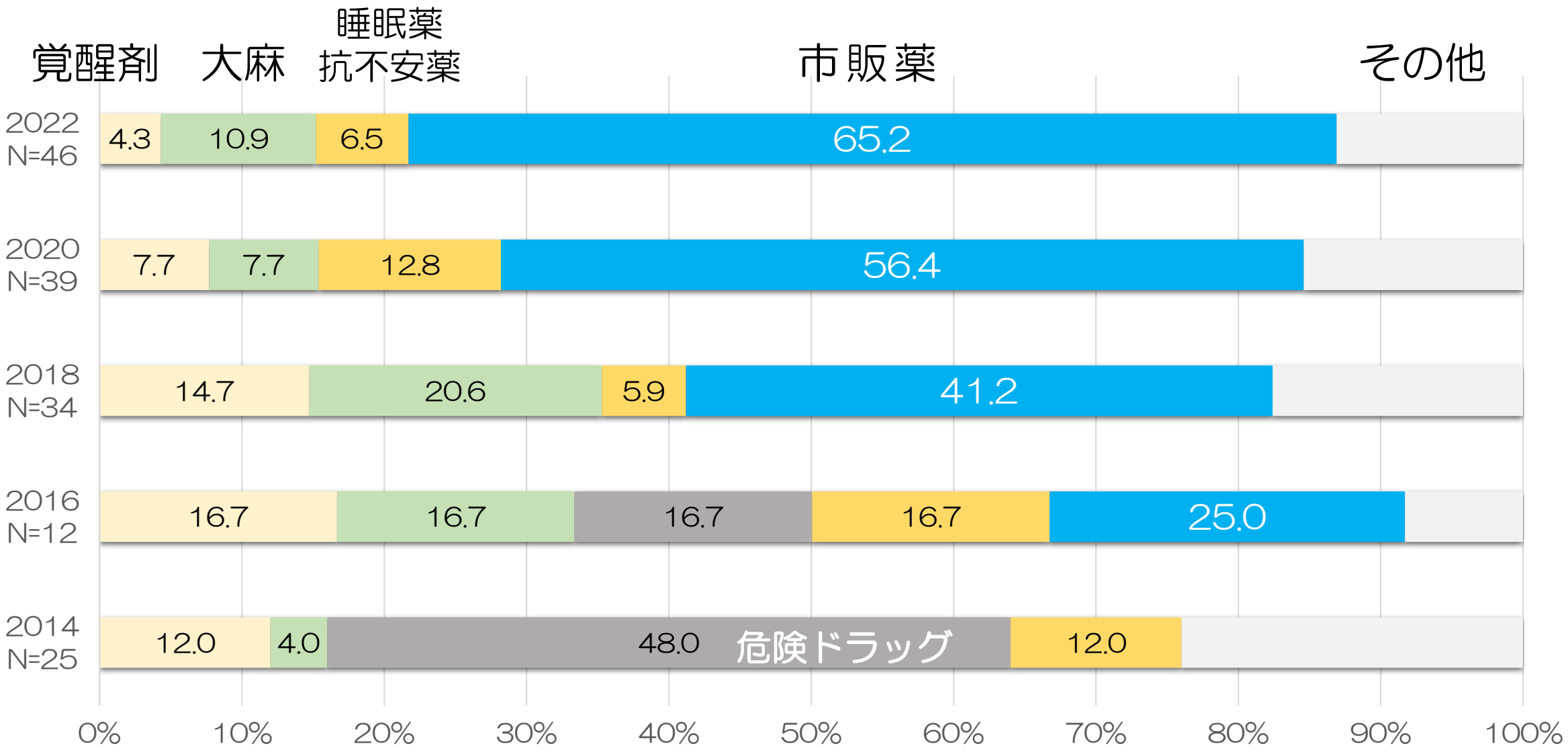
市販薬を主たる薬物とする薬物関連精神疾患患者

（一年以内に薬物使用あり症例）



2022年度 全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査

10代患者の「主たる薬物」の推移



2022年度 全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査

受診患者の主たる薬物である市販薬の内訳

		男性 n＝119	女性 n＝148	合計 n＝267
(ジヒドロ)コデイン含有群	度数	91	106	197
	%	76.5	71.6	73.8
ブロモバレリル尿素主剤群	度数	11	27	38
	%	9.2	18.2	14.2
デキストロメトルファン含有群	度数	9	27	36
	%	7.6	18.2	13.5
アリルイソプロピルアセチル尿素含有群	度数	14	17	31
	%	11.8	11.5	11.6
ジフェンヒドラミン主剤群	度数	4	23	27
	%	3.4	15.5	10.1
カフェイン単剤群	度数	3	7	10
	%	2.5	4.7	3.7

令和4年度全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査 改変

日本中毒情報センターへの過量摂取・相談事例

一般用医薬品の過量摂取に関する相談件数 上位10薬剤（2017～2021年）

販売名	件数	うち10歳代	薬効分類	主な配合成分
エスエスブロン錠	139	77（55%）	鎮咳去痰薬	ジヒドロコデイン、メチルエフェドリン
バファリンA	86	30（35%）	解熱鎮痛薬	アスピリン
イブA	83	47（57%）	解熱鎮痛薬	イブプロフェン アリルイソプロピルアセチル尿素
エスタロンモカ錠	68	27（40%）	眠気防止薬	カフェイン
レスタミンコーワ糖衣錠	33	20（61%）	抗アレルギー薬	ジフェンヒドラミン
エスタロンモカ12	32	10（31%）	眠気防止薬	カフェイン
ウット	26	4（15%）	催眠鎮静薬	ブロモバレリル尿素 アリルイソプロピルアセチル尿素
ナロンエース	24	5（21%）	解熱鎮痛薬	ブロモバレリル尿素、イブプロフェン
新ルルA錠s	24	10（42%）	かぜ薬	ジヒドロコデイン、メチルエフェドリン
パブロンゴールドA錠	23	9（39%）	かぜ薬	ジヒドロコデイン、メチルエフェドリン

令和5年10月30日 厚労省 第9回医薬品の販売制度に関する検討会資料4-1

濫用等のおそれのある医薬品の販売について

令和6年1月12日 医薬品 会・とりまとめ

２０歳で区切る意味？

	20歳未満	20歳以上	
	小容量のみ販売	小容量	複数・大容量
確認・情報提供の方法	対面orオンライン	対面orオンライン インターネット	対面orオンライン
購入者の状況確認	義　務		
複数購入理由の確認	規定なし	規定なし	義　務
氏名等の確認・記録の作成、保存	義　務	必要な場合※ 義務	義　務
他店での購入状況	義　務		
濫用等に関する情報提供	義　務		
陳列場所	購入者の手の届かない場所		

実効性は？

空箱陳列？

※ 頻回購入の防止のため、次の場合に氏名等の確認・記録の作成及び記録を参照した販売を行う。
- 対面又はオンライン等により、購入者が未成年ではないことが確実に確認でき、また、購入者の状況も確認できる場合において、購入者の状況も踏まえ資格者が必要と判断する場合。
- インターネット販売等非対面での販売の場合。

「濫用等のおそれのある医薬品」の変遷

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th>1987年
（昭和62年）</th><th>2014年
（平成26年）</th><th>2023年
（令和5年1月）</th><th>2024年
（令和6年1月）</th></tr>
<tr><th>薬務局
企画課長通知</th><th>濫用等のおそれのある医薬品
指　定</th><th>濫用等のおそれのある医薬品
範囲拡大</th><th>医薬品の販売制度に関する検討会
とりまとめ</th></tr>
<tr><td>コデイン</td><td rowspan="2">鎮咳去痰薬のうち
内用液剤に限る</td><td rowspan="2">鎮咳去痰薬のうち
内用液剤に限る</td><td rowspan="7">薬効・剤型の
制限撤廃</td><td rowspan="7">対象成分
変わらず

販売方法変更

外箱等の表示※</td></tr>
<tr><td>ジヒドロコデイン</td></tr>
<tr><td>メチルエフェドリン</td><td colspan="2">鎮咳去痰薬のうち
内用液剤に限る</td></tr>
<tr><td>エフェドリン</td><td></td><td rowspan="3">追加指定</td></tr>
<tr><td>ブロモバレリル尿素</td><td></td></tr>
<tr><td>プソイドエフェドリン</td><td></td></tr>
</table>

※ 濫用等のおそれのある医薬品について、濫用に対する注意喚起として、
その外箱等に濫用のおそれに関する注意喚起や、濫用に伴う気概に関する情報を表示

「濫用等のおそれのある医薬品」を含む製剤①

（市販薬，配置薬：内服薬）

	かぜ薬（669製剤）	鎮咳去痰薬（333製剤）
ジヒドロコデイン（DC）含有	302製剤（45.1%）	169製剤（50.8%）
メチルエフェドリン（ME）含有	538製剤（80.4%）	211製剤（63.4%）
ME，DC を共に含有	269製剤（40.2%）	165製剤（49.5%）

医薬品医療機器総合機構「一般用医薬品・要指導医薬品 情報検索」,2024年1月15日検索

ジヒドロコデイン、メチルエフェドリンは必要か？

- ジヒドロコデイン、メチルエフェドリンを必要とする患者は、セルフ・メディケーション（一般用医薬品）の適応か？
- 年に何回、調剤しますか？

「エスエスブロン液W」の組成

1.ジヒドロコデイン(DC)

- 中枢神経抑制作用
- モルヒネ型依存(精神・身体依存)形成

2.メチルエフェドリン(ME)

- アンフェタミン類似の中枢神経興奮作用
- 精神依存形成

3.クロルフェニラミン(CP)

- ジヒドロコデイン、メチルエフェドリンの報酬効果の著明な増強作用[1)]

1980年代に
乱用が流行

1）村上優：薬物依存の現状，IRYOU　Vol.54 No.5(201-205)2000.5

「エスエスブロン液W」の組成

1.ジヒドロコデイン(DC)

- 中枢神経抑制作用
- モルヒネ型依存(精神・身体依存)形成

2.メチルエフェドリン(ME)

- アンフェタミン類似の中枢神経興奮作用
- 精神依存形成

依存形成の責任成分[2)]

3.クロルフェニラミン(CP)

- ジヒドロコデイン、メチルエフェドリンの報酬効果の著明な増強作用[1)]

1) 村上優：薬物依存の現状，IRYOU　Vol.54 No.5(201-205)2000.5

2) 2020年度 全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査

「エスエスブロン液W」と共通の組成を有する製剤

（市販薬，配置薬：内服薬）

	かぜ薬（669製剤）	鎮咳去痰薬（339製剤）
ME，DC，CP を共に含有	221製剤（33.0%）	135製剤（39.8%）

医薬品医療機器総合機構「一般用医薬品・要指導医薬品 情報検索」,2024年1月15日検索

「医薬品の販売制度に関する検討会」とりまとめ

＊濫用の実態の把握及び当該実態等を踏まえ、
必要と認められた対象成分の見直し

＊「要指導・一般用医薬品製造販売承認基準」の見直し？

「エスエスブロン液W」と共通組成を有する咳止め

ベストセラー1位 - カテゴリ せき止め

過去1か月で4000点以上購入されました

−40% ￥990 税込

参考価格: ~~￥1,650~~

過去1か月で700点以上購入されました

−52% ￥960 税込

参考価格: ~~￥1,650~~

2024年1月10日検索

「エスエスブロン液W」と共通組成を有する咳止め

ベストセラー1位 - カテゴリ せき止め

過去1か月で4000点以上購入されました

−40% ￥990 税込

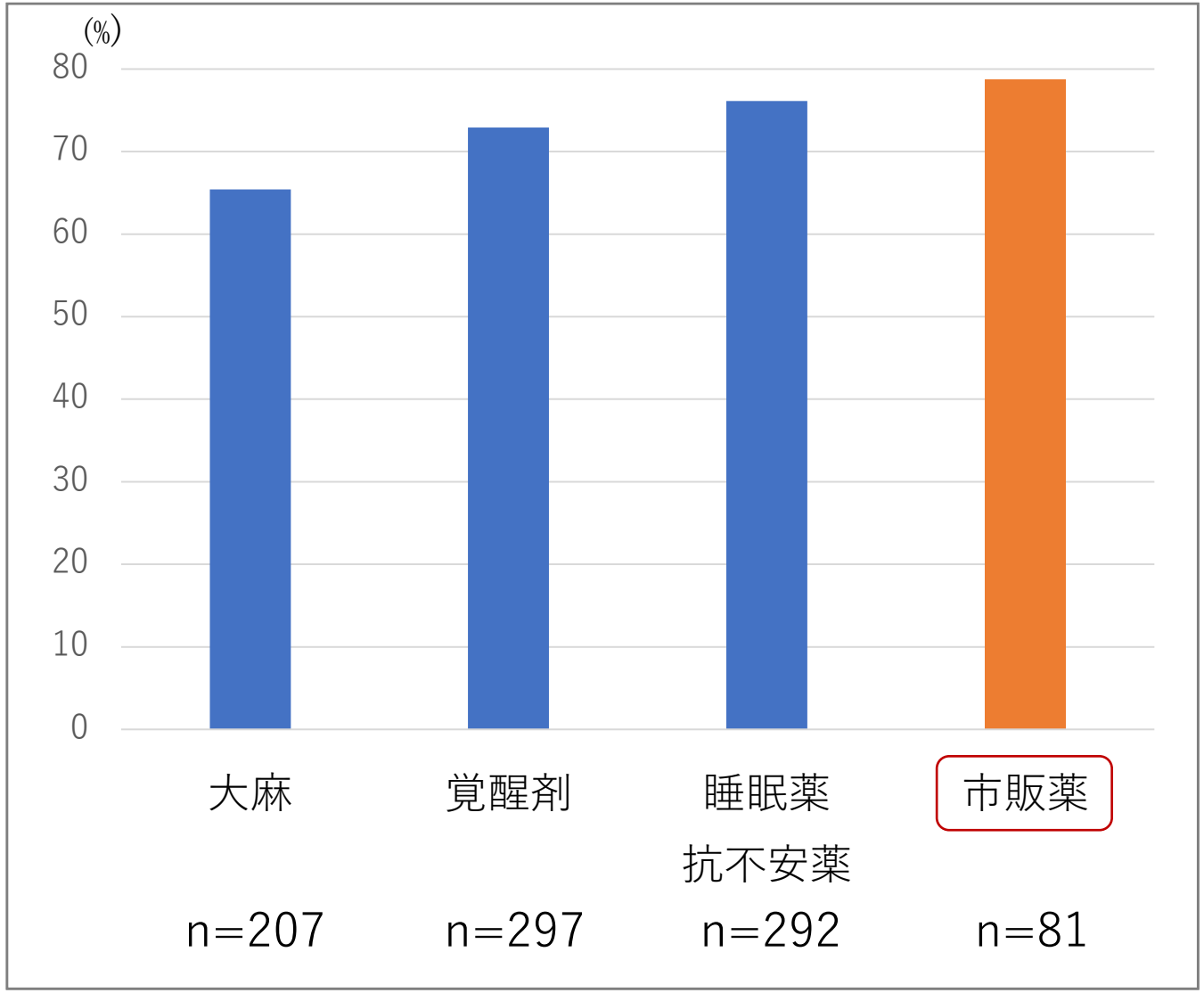
参考価格: ~~￥1,650~~

「医薬品の販売制度に関する検討会」
とりまとめ

広告規制が盛り込まれていない

2024年1月10日検索

主たる薬物別にみた「依存症候群」の割合



（1年以内使用あり・症例）

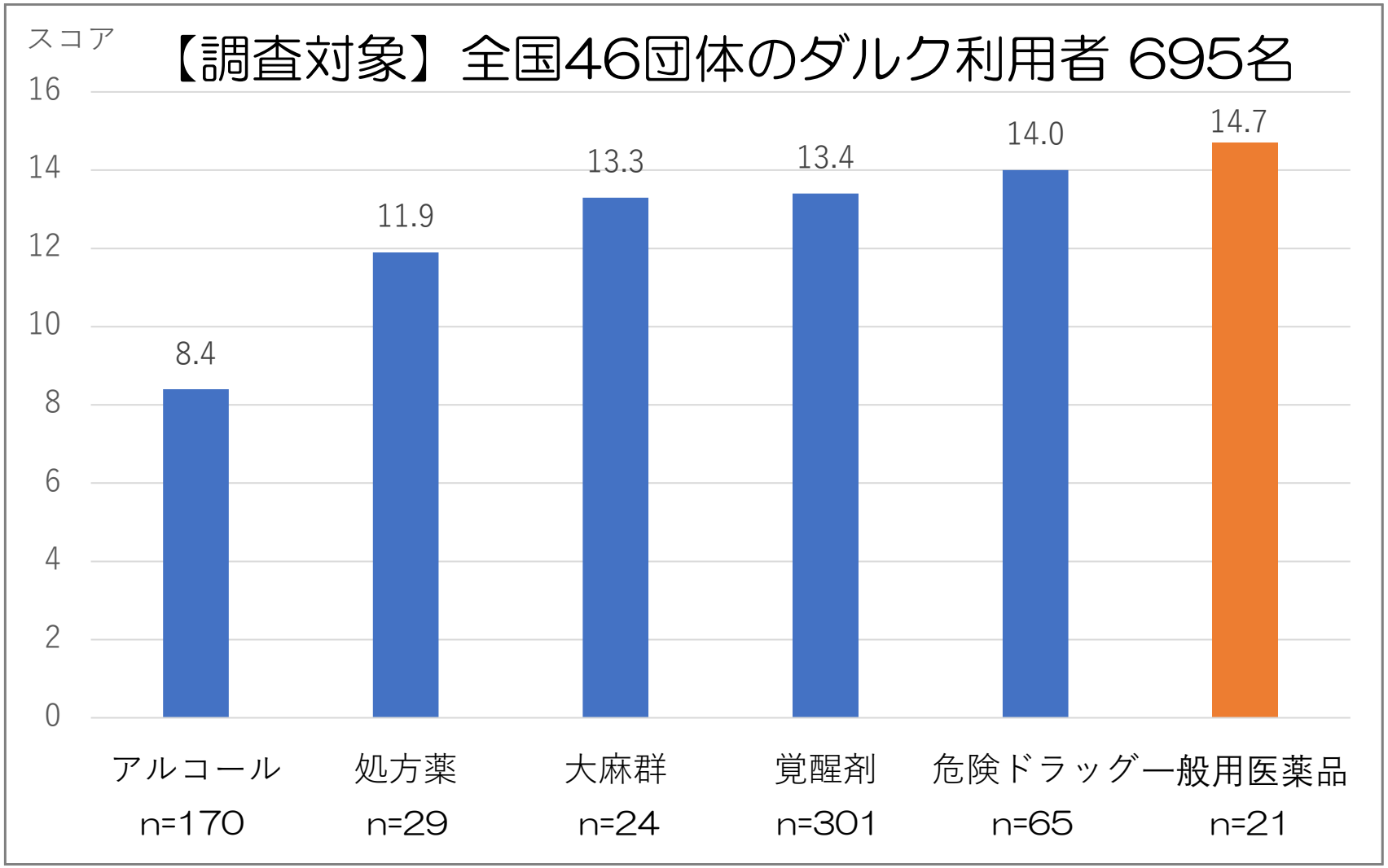
＊市販薬を主たる薬物とする患者
依存症候群の割合が最も高い

- 複数の中枢神経作用薬が、相互に作用を増強

市販薬：
鎮咳薬、感冒薬、鎮痛薬、睡眠薬など

令和4年度全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査 改変

主たる薬物別にみたDAST-20スコア



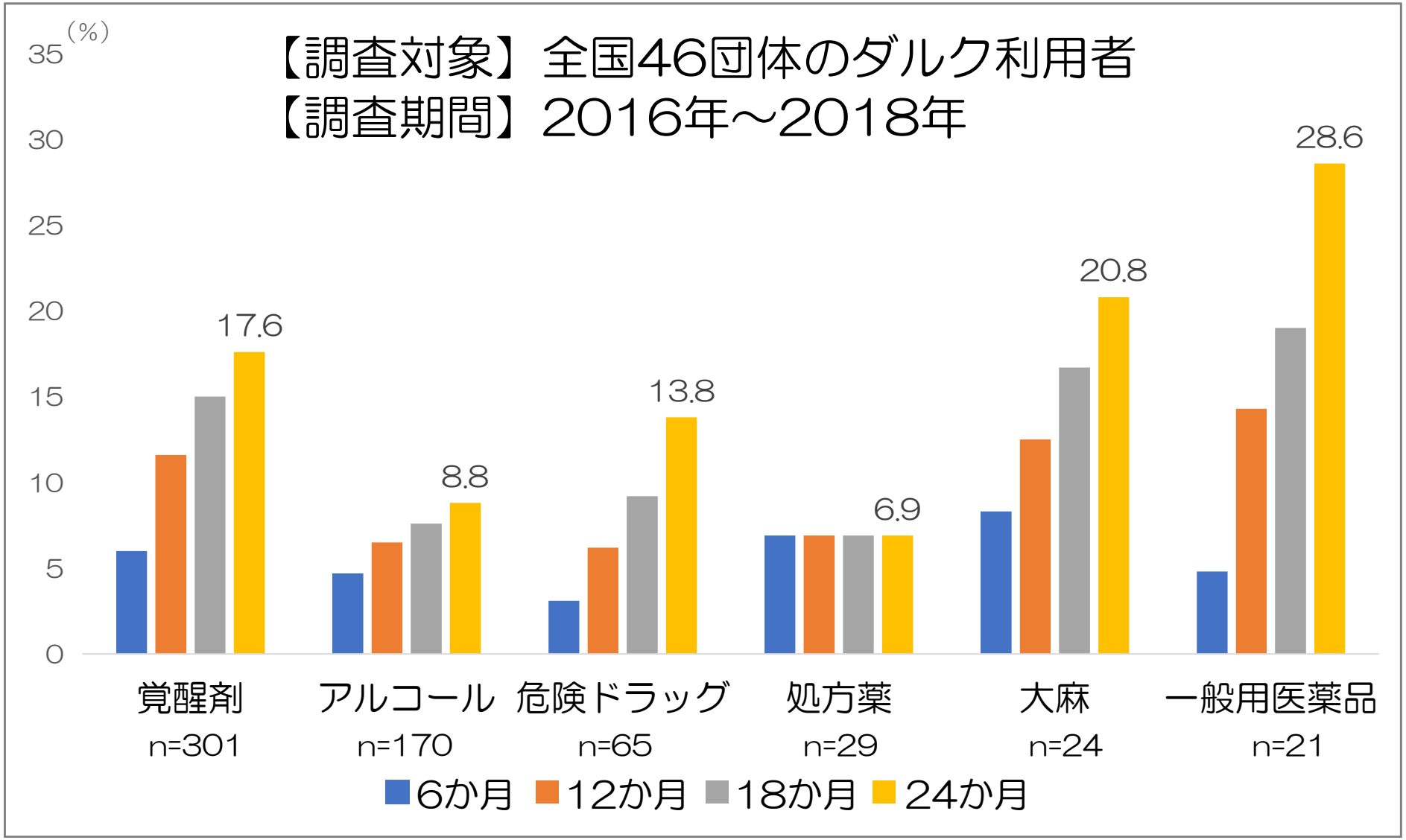
DAST
（The Drug Abuse Screening Test）
薬物乱用スクリーニングテスト20

自記式の評価尺度により、
薬物依存症の重症度を測定

- 本研究はダルク利用者を対象としたコホート研究を情報源としている。
- 必ずしも一般用医薬品の乱用者全体を代表するものとは言えない
- しかし、一般用医薬品依存症例の臨床像が明らかになった

令和元年度 厚生労働科学特別研究事業 民間の依存症支援団体利用者を対象とする依存実態の再解析及び追加調査
https://www.ncnp.go.jp/nimh/yakubutsu/report/pdf/OTC_R1.pdf

主たる薬物別にみた累積再使用率



一般用医薬品依存者

2年以内に1/4以上が使用を再開

他剤より依存の程度が高い

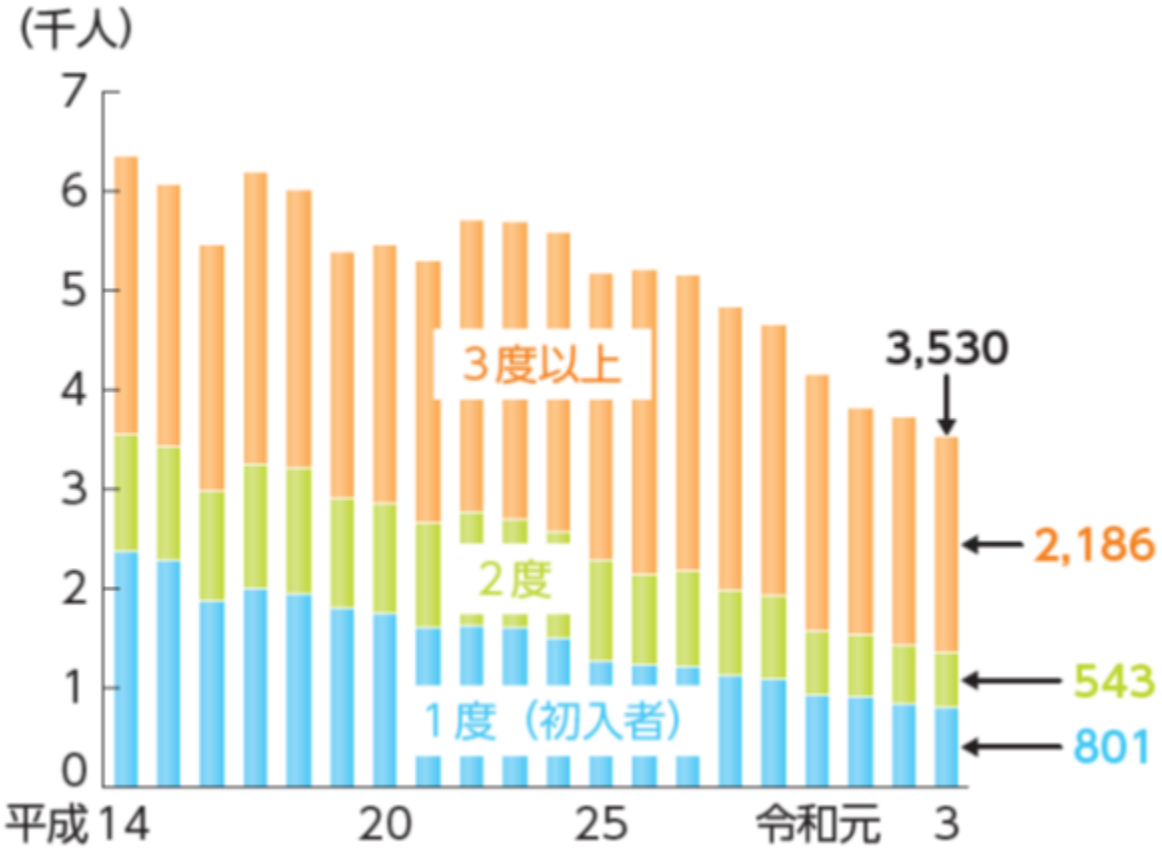
令和元年度 厚生労働科学特別研究事業 民間の依存症支援団体利用者を対象とする依存実態の再解析及び追加調査

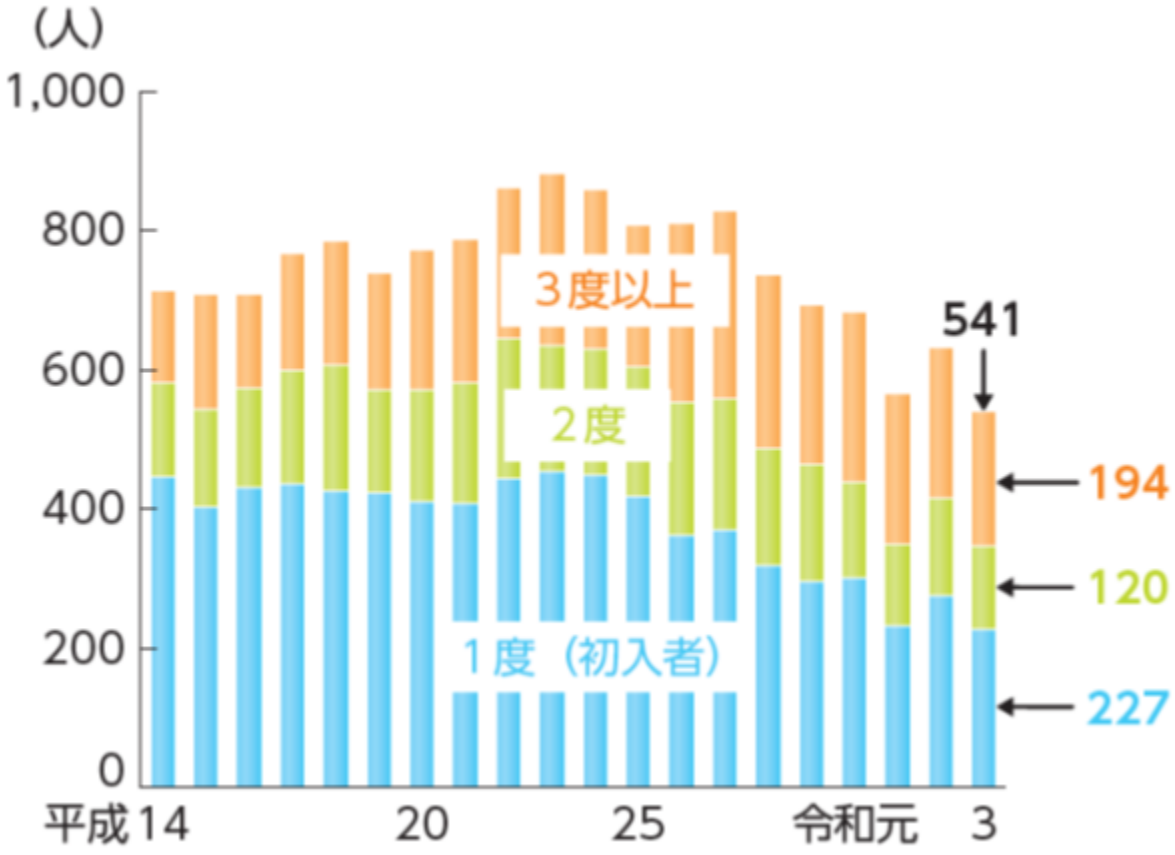
覚醒剤取締法違反 受刑者数の推移

令和3年

男性	初犯	再犯
	801	2,729

女性	初犯	再犯
	227	314





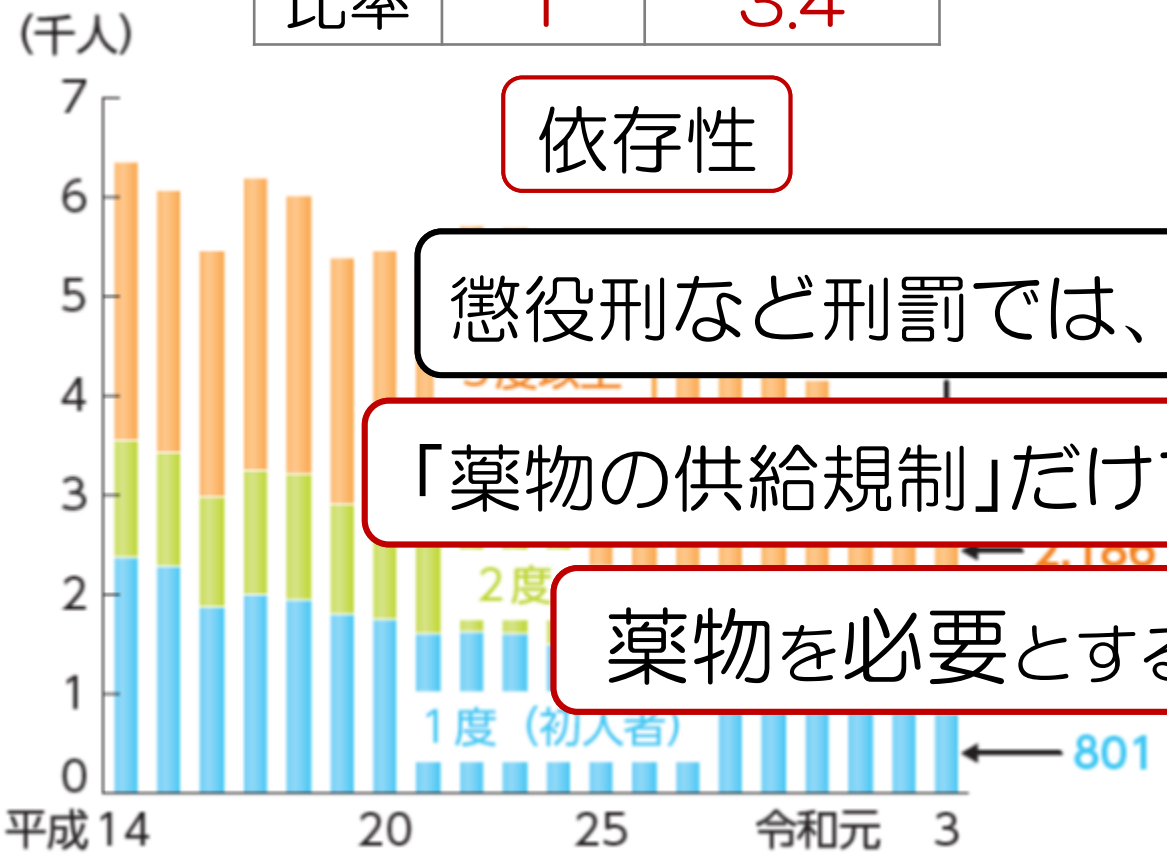
法務省,「令和4年版 犯罪白書」より改変

覚醒剤取締法違反 受刑者数の推移

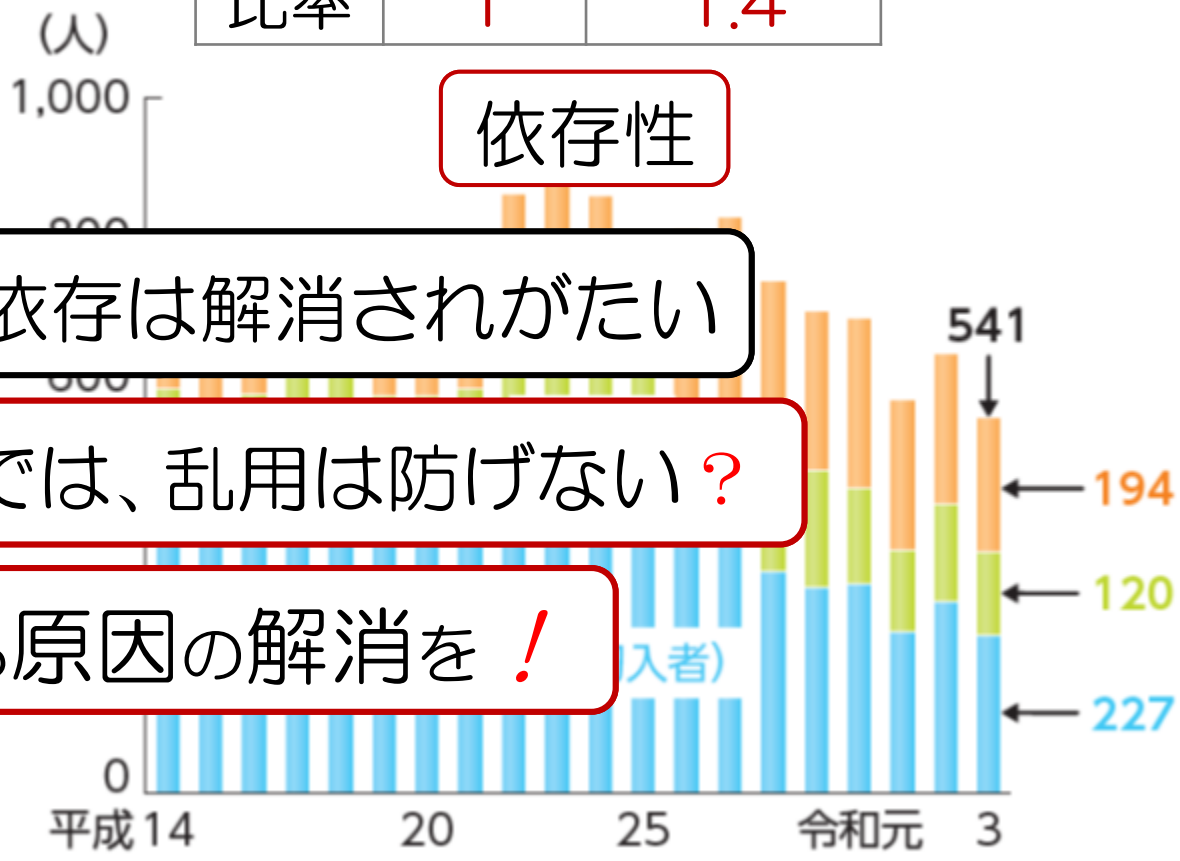
令和3年

男性	初犯	再犯
	801	2,729
比率	1	3.4

女性	初犯	再犯
	227	314
比率	1	1.4



依存性



依存性

懲役刑など刑罰では、依存は解消されがたい

「薬物の供給規制」だけでは、乱用は防げない？

薬物を必要とする原因の解消を！

法務省,「令和4年版 犯罪白書」より改変

思春期における薬物乱用の危険因子

社会的要因
＊安価な薬物入手費用、経済的な貧困 ＊販売、使用に関する規制の欠如 ＊他地域からの転入者の多い、過密な住環境 ＊住民同士の絆に乏しい地域社会
個人的/対人関係的要因
①心理的因子 ＊幼児期から、育てにくい基質、を持つ ＊幼少期における、新奇希求性の高さ、損害回避性の低さ、といった行動特性 ＊注意欠陥・多動性障害や行為障害などの破壊的行動障害 ②家族の物質使用に関連する因子 ③養育状況に関連する因子 ＊一貫しない親の養育態度 ＊虐待被害や家庭内暴力場面の目撃 ＊両親の離婚 ＊男子の場合、実父や継父の不在 ④学校生活に関連する要因 ＊知的能力の低さ ＊学業や課外活動での達成感の乏しさ ＊学校での失敗体験、不登校 ⑤友人に関連する要因 ＊仲間外れにされたり、いじめられた体験 ＊友人の薬物使用 ⑥タバコ・アルコールなどの物質使用

松本俊彦，薬物依存とアディクション精神医学，金剛出版，2012

思春期における薬物乱用の危険因子

社会的要因

＊安価な薬物入手費用、経済的な貧困

＊販売、使用に関する規制の欠如

＊他地 過密な住環境

＊住民 会

個人的/対人関係的要因

①心理的因子

＊幼児期から、育てにくい基質、を持つ

＊幼少期における、新奇希求性の

損害回避性の低さ、といった行動特性

＊注意欠陥・多動性障害

破壊的行動障害

②家族の物質使用に関連する因子

③養育状況に関連する因子

＊一貫しない親の養育態度

＊虐待被害や家庭内暴力場面の目撃

＊両親の離婚

＊男子の場合、実父や継父の不在

④学校生活に関連する要因

＊知的能力の低さ

＊学業や課外活動での達成感の乏しさ

の失敗体験、不登校

連する要因

り、いじめられた体験

⑥タバコ・アルコールなどの物質使用

薬物の供給規制

薬物需要の低減

薬物を必要とする原因の解消

松本俊彦，薬物依存とアディクション精神医学，金剛出版，2012

の広告

- 44包
- 成人1日3包服用
- 1包装：約2週間分

新聞折込チラシ

1,318円 税込　56%off

ネット通販サイト

ベストセラー1位 - カテゴリ 感冒改善

過去1か月で3000点以上購入されました

−40%　￥1,647税込

参考価格：~~￥2,750~~

を解剖すると・・・

成 分 名	1包中 含有量	1箱(44包)中 含有量	効能・効果
ジヒドロコデイン	8mg	352mg	せき中枢にはたらき、せきをしずめます
dl-メチルエフェドリン	20	880	気管支を広げ呼吸を楽にし、咳をしずめます。
クロルフェニラミン	2.5	110	くしゃみ、鼻みず、鼻づまりをおさえます
アセトアミノフェン	300	13,200	発熱、頭痛、のどの痛み等をしずめます
無水カフェイン	25	1,100	頭痛をしずめます。
グアイフェネシン	60	2,640	たんをやわらかくして、出しやすくします。
リボフラビン	4	176	かぜの時に消耗しやすいビタミンを補給。

を解剖すると・・・

成分名	1包中含有量	1箱(44包)中含有量
ジヒドロコデイン	8mg	352mg
dl-メチルエフェドリン	乱用誘発の可能性	
クロルフェニラミン	2.5	110
アセトアミノフェン	中毒誘発の可能性	
無水カフェイン	25	1,100
グアイフェネシン	60	2,640
リボフラビン	4	176

使用量の増加

を解剖すると・・・

成分名	1包中含有量	1箱(44包)中含有量
ジヒドロコデイン	8mg	352mg
dl-メチルエフェドリン	20	880
クロルフェニラミン	2.5	110
アセトアミノフェン	300	13,200
無水カフェイン	25	1,100
グアイフェネシン	60	2,640
リボフラビン	4	176

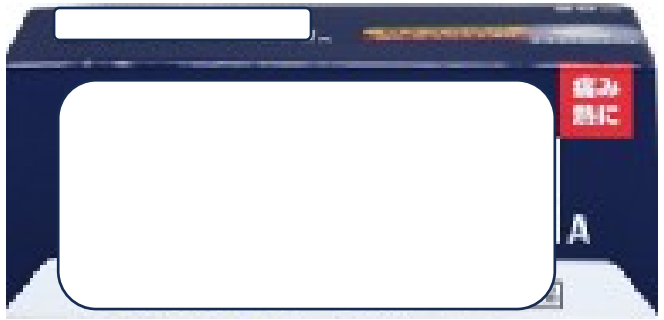
経口推定致死量※	
500～1,000mg	2箱で致死量相当
13～25g	1箱で致死量相当
約10g	10箱　〃

※）森・山崎:編,急性中毒情報ファイル第4版,（株）廣川書店,2008

「医薬品の販売制度に関する検討会」とりまとめ

＜ 広告規制 記載なし ＞

一箱で致死量となる可能性のある製剤



アセトアミノフェン経口推定致死量：13～25g ※1

	アセトアミノフェン含有量
150錠	15g
80包	24g
100包	30g

※1）編集:森・山崎,急性中毒情報ファイル第4版,(株)廣川書店,2008

アスピリン推定致死量：500mg/体重kg＞ ※2

	アスピリン含有量
80錠	26.4g

26400mg ÷ 500mg/kg ＝ 体重 52.8kg未満 推定致死量

※2）監修:相馬一亥,急性中毒診療レジデントマニュアル第2版,医学書院,2012

日本中毒情報センターへの過量摂取・相談事例

一般用医薬品の過量摂取に関する相談件数 上位10薬剤（2017～2021年）

販売名	件数	うち10歳代	薬効分類	主な配合成分
エスエスブロン錠	139	77（55%）	鎮咳去痰薬	ジヒドロコデイン、メチルエフェドリン
バファリンA	86	30（35%）	解熱鎮痛薬	アスピリン
イブA	83	47（57%）	解熱鎮痛薬	イブプロフェン アリルイソプロピルアセチル尿素
エスタロンモカ錠	68	27（40%）	眠気防止薬	カフェイン
レスタミンコーワ糖衣錠	33	20（61%）	抗アレルギー薬	ジフェンヒドラミン
エスタロンモカ12	32	10（31%）	眠気防止薬	カフェイン
ウット	26	4（15%）	催眠鎮静薬	ブロモバレリル尿素 アリルイソプロピルアセチル尿素
ナロンエース	24	5（21%）	解熱鎮痛薬	ブロモバレリル尿素、イブプロフェン
新ルルA錠s	24	10（42%）	かぜ薬	ジヒドロコデイン、メチルエフェドリン
パブロンゴールドA錠	23	9（39%）	かぜ薬	ジヒドロコデイン、メチルエフェドリン

令和5年10月30日 厚労省 第9回医薬品の販売制度に関する検討会資料4-1

受診患者の主たる薬物である市販薬の内訳

		男性 n＝119	女性 n＝148	合計 n＝267
(ジヒドロ)コデイン含有群	度数	91	106	197
	%	76.5	71.6	73.8
ブロモバレリル尿素主剤群	度数	11	27	38
	%	9.2	18.2	14.2
デキストロメトルファン含有群	度数	9	27	36
	%	7.6	18.2	13.5
アリルイソプロピルアセチル尿素含有群	度数	14	17	31
	%	11.8	11.5	11.6
ジフェンヒドラミン主剤群	度数	4	23	27
	%	3.4	15.5	10.1
カフェイン単剤群	度数	3	7	10
	%	2.5	4.7	3.7

令和4年度全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査 改変

解熱鎮痛薬の主な配合成分

解熱鎮痛薬：389製剤

薬　効	成分名	配合製剤数
解熱鎮痛成分（必須成分）	アセトアミノフェン	229（58.9%）
	アスピリン	56（14.4%）
	イブプロフェン	102（26.2%）
	ロキソプロフェン	23　（5.9%）
催眠鎮静成分	ブロモバレリル尿素	82（21.1%）
	アリルイソプロピルアセチル尿素	128（32.9%）
中枢神経興奮成分	カフェイン	283（72.8%）

医薬品医療機器総合機構「一般用医薬品・要指導医薬品 情報検索」,2024年1月14日検索

アリルイソプロピルアセチル尿素

- 解熱鎮痛薬・鎮静剤配合成分として、ブロムワレリル尿素よりも多用
- ブロムワレリル尿素同様、習慣性のある医薬品に指定（薬機法第50条第11号昭和36年厚生省告示第18号）

解熱鎮痛薬の主な配合成分

解熱鎮痛薬：389製剤

薬　効	成分名	配合製剤数
解熱鎮痛成分（必須成分）	アセトアミノフェン	229（58.9%）
	アスピリン	56（14.4%）
	イブプロフェン	102（26.2%）
	ロキソプロフェン	23　（5.9%）
催眠鎮静成分	ブロモバレリル尿素	82（21.1%）
	アリルイソプロピルアセチル尿素	128（32.9%）
中枢神経興奮成分	カフェイン	283（72.8%）

濫用等のおそれのある医薬品

＊催眠鎮静成分・カフェインの配合目的：解熱鎮痛成分の作用増強

＊催眠鎮静成分配合製剤には全てカフェインも配合

医薬品医療機器総合機構「一般用医薬品・要指導医薬品 情報検索」,2024年1月14日検索

解熱鎮痛薬の主な配合成分

解熱鎮痛薬：389製剤

薬　効	成分名	配合製剤数
解熱鎮痛成分（必須成分）	アセトアミノフェン	229（58.9%）
	アスピリン	56（14.4%）
	イブプロフェン	102（26.2%）
	ロキソプロフェン	23　（5.9%）
催眠鎮静成分	ブロモバレリル尿素	82（21.1%）
	アリルイソプロピルアセチル尿素	128（32.9%）
中枢神経興奮成分	カフェイン	283（72.8%）

必要か？

＊催眠鎮静成分・カフェインの配合目的：解熱鎮痛成分の作用増強

＊催眠鎮静成分配合製剤には全てカフェインも配合

医薬品医療機器総合機構「一般用医薬品・要指導医薬品 情報検索」,2024年1月14日検索

ブロモバレリル尿素への評価

日本薬局方、米国薬局方、英国薬局方、ドイツ薬局方、ヨーロッパ薬局方のうち、2000 年以降、ブロモバレリル尿素を収載しているのは、日本薬局方のみ[1)]

＊服用により酩酊感、大量摂取により呼吸抑制、速やかな依存形成[2)]

＊ 1950～1960年代、若年者の自殺目的による大量服用事例が多発[1)]

＊ベンゾジアゼピン系薬剤の出現により、需要が減少[1)]

わが国では未だ、１歳児から服用できる製剤にも配合[3)]

1）柳沢清久,日本薬局方に見られた向精神・神経薬の変遷(その16),薬史学雑誌 50(2),143-158(2015)

2）2020年度 全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査

3）医薬品医療機器総合機構「一般用医薬品・要指導医薬品 情報検索」,2023年9月9日検索

アリルイソプロピルアセチル尿素への評価

＊アメリカにおいて1933年よりアリルイソプロピルアセチル尿素による
血小板減少性紫斑病が報告が相次ぐ

＊1938年、アメリカ医師会・薬理化学評議会は、
同薬による、新規治療は容認できないことを表明

McGovern, Teresa; Wright, Irving (1939). “PURPURA HAEMORRHAGICA FOLLOWING USE OF SEDORMID”. Journal of the American Medical Association 112 (17): 1687.

＊イギリスでは、アリルイソプロピルアセチル尿素使用患者の血小板減少性紫斑病
発症が明らかになるまでは、鎮静剤として使用されていた

R. L. Vollum; D. G. Jamison; C. S. Cummins, Fairbrother‘s Textbook of Bacteriology（Tenth Edition）, p. 152,R.W. Fairbrother and William Heineman Medical Books Ltd,1970

Australian Government

Department of Health and Aged Care

Therapeutic Goods Administration

オーストラリア政府

保健・高齢者ケア局

治療用品管理機関

Published：31 May 2023

EVE Allylisopropylacetylurea tablets

？

（アリルイソプロピルアセチル尿素錠）

https://www.tga.gov.au/news/safety-alerts/eve-allylisopropylacetylurea-tablets

Australian Government

Department of Health and Aged Care

Therapeutic Goods Administration

オーストラリア治療用品管理機関（TGA）は、アリルイソプロピルアセチル尿素（アプロナル）を含むEVEブランド製品は重大な健康リスクがあり、オーストラリアでの販売、供給、使用が禁止されているため、消費者に服用しないよう警告しています。

アプロナルは催眠鎮静剤で、危険な副作用のためにオーストラリアでは臨床使用が中止され、世界のほとんどの国で禁止されています。

- EVE A
- EVE A EX
- EVE Quick for Headache
- EVE Quick for Headache DX

わが国では未だ、１歳児から服用できる製剤にも配合

米国におけるME・BU・AUの取扱い

Food and Drug Administration（FDA）

＊OTC Monographs@FDA ：市販薬検索サイト

＊Drugs@FDA ：1939年以降に承認された医薬品の検索サイト

・メチルエフェドリン

・ブロモバレリル尿素　・アリルイソプロピルアセチル尿素

いずれのサイトでも見いだせない

薬物乱用頭痛

緊張性頭痛や片頭痛を有する者が、頭痛薬を乱用することにより、
頭痛の頻度や継続時間が増大して、慢性的に頭痛を呈するようになった状態
通常（必ずではないが）、乱用を中止すると消失する※

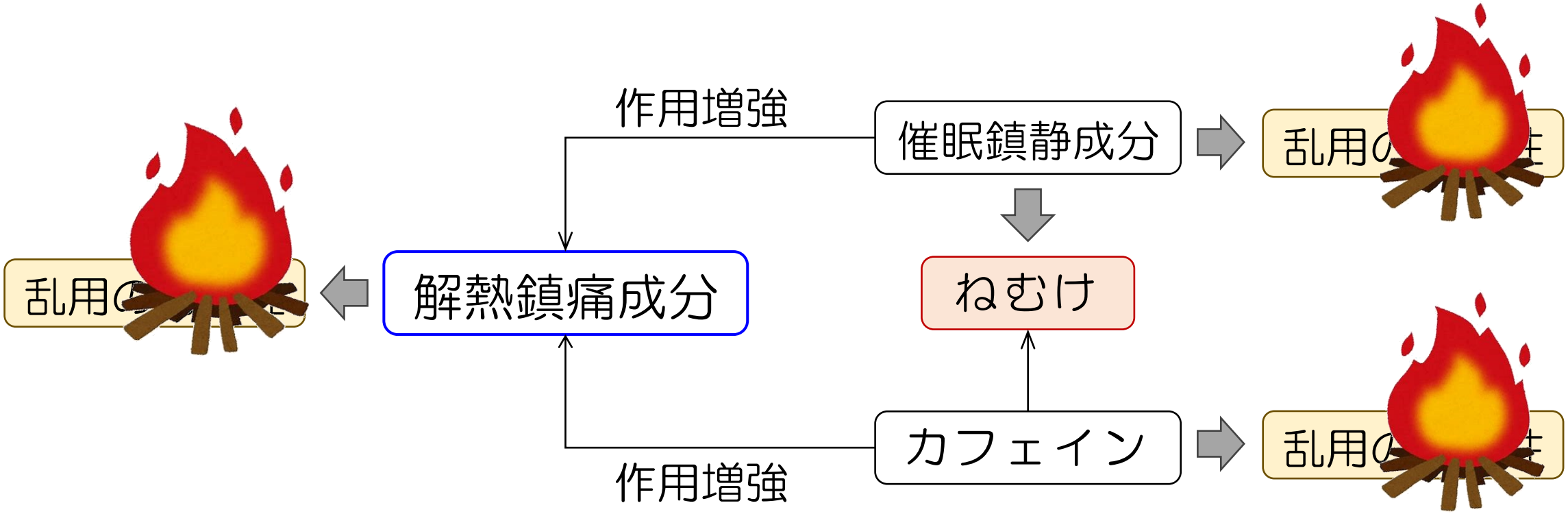
＊アセトアミノフェン、アスピリン、イブプロフェン、ロキソプロフェンなどの場合

・3か月を超えて、1ケ月に15日以上定期的に服用

カフェイン離脱頭痛※
2週間を超えて1日200mgを上回るカフェインの定期的な摂取があり、
それが中断された後、24時間以内に発生する頭痛。
その後の摂取がなければ、7日以内に自然に消失する

※：国際頭痛分類 第3版（ICHD-3）日本語版

解熱鎮痛薬を解剖すると…



＊催眠鎮静成分配合製剤には、全てカフェインも配合

＊かぜ薬669製剤中、589(88%)にカフェイン配合

催眠鎮静成分・カフェインは必要か？

「エナジードリンク」にもカフェインが！

商　品　名	容量(ml)	カフェイン(mg)
モンスタースーパーコーラ	500	200
ゾーン Ver.2.0.0	500	150
モンスターエナジーゼロシュガー	355	142
モンスター パイプラインパンチ	355	142
モンスターM3	150	140
メガシャキ	100	100

コーヒー	約150	約90

□□□□□モカ12	15歳以上 1日量	1回2錠 1日2回まで	400

「エナジードリンク」にもカフェインが！

商　品　名	容量(ml)	カフェイン(mg)
モンスタースーパー		200
ゾーン Ver.2.0.0	300	150
モンスターエナジーゼロシュガ	355	142
モンスター パイプラ	5	142
モンスターM3	150	140
メガシャキ	00	100
コーヒー	約150	約90

エナジードリンク連用

↓

カフェイン離脱頭痛

↓

頭 痛 薬

解熱鎮痛薬 〇〇A錠	15歳以上 1日量	1回2錠 1日2回まで	240mg

高校生のエナジードリンク使用経験率

	合計	男性	女性
	点推定値（%）	点推定値（%）	点推定値（%）
過去1ケ月 使用経験率	30.9	42.5	20.9

＊男子生徒の使用経験率は、女子生徒の2倍以上

	1年生	2年生	3年生
	点推定値（%）	点推定値（%）	点推定値（%）
過去1ケ月 使用経験率	29.5	32.9	31.1

薬物使用と生活に関する全国高校生調査2021

薬物乱用・依存症・中毒

オーバードーズ

薬物乱用

本来の目的や、社会のルールからはずれた用い方をすること

依存症

脳の働き方に変化が生じ、やめようと決意しても、自分の意志ではコントロールできなくなる状態

中　毒

薬物によって生じる身体的に危険な状態

急性中毒

薬物による直接的な薬理作用による。生命に危険が及ぶことも。

慢性中毒

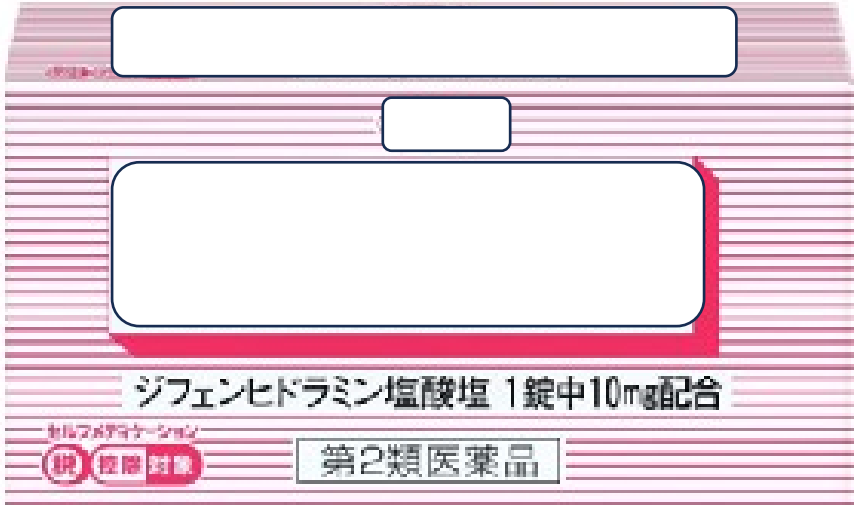
乱用が続くことで生じる慢性的変化。乱用を中止しても続く場合も。

乱用薬剤の芽

デキストロメトルファン

過去1か月で4000点以上
購入されました

ジフェンヒドラミン



過去1か月で3000点以上
購入されました

「濫用等のおそれのある医薬品」未指定

2024年1月17日検索

受診患者の主たる薬物である市販薬の内訳

		男性 n＝119	女性 n＝148	合計 n＝267
(ジヒドロ)コデイン含有群	度数	91	106	197
	%	76.5	71.6	73.8
ブロモバレリル尿素主剤群	度数	11	27	38
	%	9.2	18.2	14.2
デキストロメトルファン含有群	度数	9	27	36
	%	7.6	18.2	13.5
アリルイソプロピルアセチル尿素含有群	度数	14	17	31
	%	11.8	11.5	11.6
ジフェンヒドラミン主剤群	度数	4	23	27
	%	3.4	15.5	10.1
カフェイン単剤群	度数	3	7	10
	%	2.5	4.7	3.7

令和4年度全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査 改変

市販薬配合成分としての適格性

- ジヒドロコデイン
- メチルエフェドリン
- ブロモバレリル尿素
- アリルイソプロピルアセチル尿素
- カフェイン（眠気防止薬以外）

服用した人が全て、乱用・依存状態に陥るわけではない

乱用・依存形成等の可能性

治療上の有用性

適格性の再評価必要

第六次薬物乱用防止五か年戦略①

令和５年８月　厚労省 薬物乱用対策推進会議

戦略策定上の重要項目

（1）　大麻乱用期への総合的な対策の強化

（2）　再乱用防止対策における関係機関の連携した“息の長い支援”の強化

（3）　サイバー空間を利用した薬物密売の取締りの強化

（4）　国際的な人の往来増加への対応強化

（5）　薬物乱用政策についての国際社会との連携・協力強化と積極的な発信

第六次薬物乱用防止五か年戦略③

令和５年８月　厚労省 薬物乱用対策推進会議

目標 １　青少年を中心とした広報･啓発を通じた国民全体の規範意識の向上による薬物乱用未然防止

（1）　学校における薬物乱用防止教育及び啓発の充実

（2）　有職・無職少年に対する啓発の強化

（3）　国際的な人の往来の増加に向けた海外渡航者に対する広報･啓発活動の推進

（4）　国民全体の規範意識の向上に向けた広報・啓発活動の推進

薬物乱用防止教育の充実について（抜粋）

令和５年８月9日　文部科学省 初等中等教育局長

薬物乱用防止教育の充実について（通知）

「第六次薬物乱用防止五か年戦略」を踏まえ、下記事項に留意するとともに、域内の市区町村教育委員会、管下の学校等の関係機関に対して本内容の周知を図り、青少年の薬物乱用防止に関するより一層の指導の徹底を図られますようお願いします。

記

６.都道府県等が開催する薬物乱用防止教室指導者研修会等は、（中略）内容を充実すること。その際、公益財団法人日本学校保健会が作成・配布している「薬物乱用防止教室マニュアル」を参考にしつつ、外部専門家の参加を得るため、関係機関等との連携の充実を図ること。

平成26年度改訂 薬物乱用防止教室マニュアル

第1章 薬物乱用防止教室の必要性

1 薬物乱用の現状

＊覚醒剤事犯検挙人員年次推移

＊中・高校生の覚醒剤事犯検挙人員年次推移及び未成年者の割合

＊大麻事犯検挙人員年次推移

違法薬物中心の記載

第4章 薬物乱用防止についての基礎的情報

1 薬物乱用と薬物依存と薬物中毒

(1)薬物とは

- 「薬物」とは生体に対して何らかの身体的・精神的作用を示す化学物質の総称
- 法規制されている麻薬や覚醒剤、嗜好品とされているアルコールやニコチン
- 病気の治療や予防に使われる「医薬品」などのすべてが「薬物」である。

ほとんど、記述されていない

令和4年度 薬物乱用防止教室 開催状況調査

調査対象学校

国公私立

小学校	18,822校	
中学校	9,776校	
高等学校	4,591校	
義務教育学校（前期）	177校	
義務教育学校（後期）	180校	
中等教育学校（前期）	56校	
中等教育学校（後期）	52校	
合　計	33,654校	（回答総数 33,654校）

文科省 初等中等教育局健康教育・食育課がん教育推進係

https://www.mext.go.jp/content/20231026-mxt_kenshoku-000031518_1.pdf

質問2　依頼した講師の職種

職種	小学校段階	中学校段階	高等学校段階
警察職員	4,407（28.6%）	3,685（38.6%）	1,981（47.7%）
学校薬剤師	6,203（40.2%）	2,677（28.0%）	635（15.3%）
民間団体等構成員	1,391（ 9.0%）	649（ 6.8%）	176（ 4.2%）
造詣の深い指導的な教員	622（ 4.0%）	514（ 5.4%）	241（ 5.8%）
薬物乱用防止指導員	643（ 4.2%）	379（ 4.0%）	156（ 3.8%）
保健所職員	455（ 2.9%）	266（ 2.8%）	110（ 2.6%）
学校医等医師	297（ 1.9%）	161（ 1.7%）	35（ 0.8%）
大学職員	155（ 1.0%）	119（ 1.2%）	160（ 3.9%）
矯正施設職員	45（ 0.3%）	120（ 1.3%）	105（ 2.5%）
税関職員	51（ 0.3%）	128（ 1.3%）	83（ 2.0%）

文科省 初等中等教育局健康教育・食育課がん教育推進係 発表資料 改変

質問2　依頼した講師の職種

職種	小学校段階	中学校段階	高等学校段階
警察職員	4,407（28.6%）	3,685（38.6%）	1,981（47.7%）
学校薬剤師	6,203（40.2%）	2,677（28.0%）	635（15.3%）

薬剤師が講師を務める「薬物」乱用防止教室（小中高合計）：32.7%

処方薬・市販薬など「捕まらない薬物」についての啓発は、
誰が行う？

市販薬乱用は10代で急増・市販薬に関する知見を有するのは薬剤師

税関職員	51（ 0.3%）	128（ 1.3%）	83（ 2.0%）

薬物乱用防止教室ねらい（抜粋）

小学校	私たちの周りにはたくさんの化学物質があること。またその中には私たちの心身の健康に大きな影態を与える危険な薬物があることを理解できるようにする。
中学校	薬物乱用の危険性が「依存」にあることを明らかにし、そのために自分の健康や社会生活に害があると分かっていても、いったん使用し始めるとやめることが難しいこと。 また「耐性」により、乱用を繰り返すと使用量が増え危険性がより大きくなることを理解できるようにする。
高等学校	１ 薬物乱用はその行動自体が違法であることを認識し、その防止について適切な判断ができ、健康な生活を送る意欲がもてるようにする。 ２ 規制薬物（麻薬、覚醒剤等）の依存性や耐性、その身体や精神に及ぼす有害性などについて科学的に正しく理解できるようにする。

公益財団法人日本学校保健会,薬物乱用防止教室マニュアル 平成26年度改訂

薬物乱用防止教室ねらい（抜粋）

小学校	私たちの周りにはたくさんの化学物質があること。またその中には私たちの心身の健康に大きな影態を与える危険な薬物があることを理解できるようにする。
中学校	薬物乱用の危険性が「依存」にあることを明らかにし、そのために自分の健康や社会生活に害があると分かっていても、いったん使用し始めるとやめることが難しいこと。 また「耐性」により、乱用を繰り返すと使用量が増え危険性がより大きくなることを理解できるようにする。
高等学校	1 薬物乱用はその行動自体が違法であることを認識し、その防止について適切な判断ができ、健康 2 規制薬物 [illegible] 細に及ぼす有害性などについて科学的に

市販薬乱用が急増する現状と乖離

市販薬乱用に関する知見を有する薬剤師の積極的関与を

特に、中学・高校での薬物乱用防止教室、薬剤師の出番です！